

令和 **3** 年度

草津市の文化振興に関する意見書

文化事業全般について

重点プロジェクトについて

令和4年3月 草津市文化振興審議会

目次

はじめに	P.1
文化事業全般について	P.2
重点プロジェクトについて	P.3
・〔展開〕次世代文化体験プロジェクト	P.4
・〔展開〕13万人の文化プロジェクト	P.10
・〔研究〕ふるさと草津の心プロジェクト	P.13
参考資料	P.15
・審議経過	P.15
・審議会委員名簿	P.16

はじめに

草津市では、文化振興の理念や施策を具体的に明文化し、市民と共有することで、より一層の文化振興を図るため、平成 29 年 7 月 1 日に草津市文化振興条例を施行されました。同条例第 6 条第 1 項では、文化振興計画の策定について定められており、文化振興施策を総合的かつ計画的に推進し、誰もが文化に親しめる環境を整え、さらには文化の力によって都市の魅力を高めることを目的として、平成 30 年 3 月には同計画を策定されています。

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、未だ収束の兆しが見えない中、当初予定の事業を計画通りに進めることは難しく、中止や変更を余儀なくされた 1 年でした。来年度は、重点プロジェクトを中心に、文化振興の新たな展開に向け、着実に歩みを進めていただきたいと思います。

この度、本年 1 月の文化芸術機能等施設整備基本計画の見直しにかかる答申に続き、当審議会としての一年間の議論の成果を意見書としてまとめましたので、今後の施策展開に反映いただけることを期待申し上げます。

草津市文化振興審議会

会長 中川 幾郎

文化事業全般について

当審議会では、草津市文化振興計画の基本施策ごとに振り分けられた各事業の実績が伸びているか、妥当な業績が上がっているか、指標が適正であるかも含め、毎年の実績と今後の方向性を報告していただき、審議しています。

昨年度に引き続き、猛威を振るう新型コロナウイルス感染症により、私たちの生活に制限がかけられる中、文化事業を進めていくこと、また、同計画を推進していくことは困難を極めたと思います。事業の中止や手法を変更しての実施等の対応を選択された事業も多くありました。

このような状況であることも加味したうえで、当審議会において、各種事業について審議を行いましたので、下記のとおり意見申し上げます。次年度以降につきましても、引き続き改善していく姿勢を持ちながら着実に事業が実施できるよう取り組んでいただきたく存じます。

市民プロデューサーや市民コーディネーターの育成と認定制度について：

文化ホールと連携し、市民プロデューサーと市民コーディネーターの育成プログラムを作成し、修了した市民を認定する制度を検討すること。

個別事業の目標値について：

事業実績の個別票にアウトカムの目標値を設定するよう検討すること。

重点プロジェクトについて

草津市文化振興計画では、文化が生み出す価値を教育、子育て、健康、福祉、産業、観光、まちづくり、環境をはじめとした様々な分野に結び付け、市の関連部局と企業、大学、文化団体等の多様な市民が連携しながら、文化を基軸とした複合的に効果のある事業を研究、展開する事業を3つの重点プロジェクトとして位置付けています。

「次世代文化体験プロジェクト」および「13万人の文化プロジェクト」については、今年度展開の年でありましたが、新型コロナウイルス感染症の対策を施しながら可能な範囲で実施に向けて取り組まれたことは評価できます。今後も同感染症の影響があることを前提に、引き続き、各事業をブラッシュアップしながら取り組んでいただきたいと考えます。

「ふるさと草津の心プロジェクト」については、本来であれば次年度は準備の年となりますが、街道文化などの事業の実施にとどまっております。研究を十分に行えなかったことから、引き続き研究の年としていただきたいと考えます。

なお、今後、各プロジェクトに位置付ける事業は、行政直営型、指定管理者委託型に分けて整理を行っていただきますようお願いいたします。

▼実施スケジュール

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
次世代文化体験プロジェクト		研究	準備	展開	展開	展開	展開
13万人の文化プロジェクト	研究	準備	展開	展開	展開	展開	展開
ふるさと草津の心プロジェクト			研究	準備	展開		

次世代文化体験プロジェクト（展開）

Ⅰ. 次世代文化体験プロジェクト情報発信事業（継続）

（１）事業目的

草津市文化振興計画に位置付ける次世代文化体験プロジェクトをオール草津で推進するため、民間が主催する文化事業の情報発信をサポートし、草津の文化を担う次世代が多様な文化に触れることができる機会の充実を図る。

（２）実施主体

主催：草津市教育委員会（生涯学習課）

（３）事業概要

□次世代文化体験プロジェクト情報発信事業

草津市教育委員会が後援、共催する事業のうち、次世代文化体験プロジェクトの目的に合致するものについて、市のホームページに特設ページを作成し、該当事業を一覧で掲載する。なお、掲載する情報は下記のとおりとする。

- （１）事業名
- （２）開催日時
- （３）開催場所
- （４）主催者名
- （５）連絡先
- （６）対象事業のホームページアドレス
- （７）対象事業のチラシ

（４）主な対象者

草津市教育委員会が後援、共催する事業の主催者

（５）実績・検証

掲載事業：26件

広報活動に苦慮している団体があり、当事業の評価は概ね好評であった。

（６）方向性

将来的には他の重点プロジェクトでの運用も検討する。

（７）委員の意見

特になし

II. アートフェスタくさつ（継続）

（1）事業目的

多様な人との関わりの中で、子どもや若者が気軽にアートに親しみ、人と文化に出会い交流する機会を創出することで、市の文化を担う次世代の育成を行う。

（2）実施主体

主 催：草津市教育委員会（生涯学習課）、イオンモール草津

受託者：草津市 21 世紀文化芸術推進協議会、草津まちづくり株式会社

事業協力：市民コーディネーター、アーティスト

（3）事業概要

わくわく体験ひろば、クリエイターズマーケット、ロジウラテラス

子どもや若者を対象とし、様々なアートに触れることができるイベントを行う。

星降る映画館

草津川跡地公園（de 愛ひろば）において、夜に映画を上映するなど、まちなかの賑わいに文化を活用したイベントを行う。

イオンモール草津との連携

アートフェスタくさつを核としながら、ワークショップイベントを中心にアーティストおよび草津市の文化の紹介等を行うことで、官民協働で文化振興を展開する。

- ・ピワアートコレクション

子どもを主な対象としたオリジナルワークショップを開催。

- ・ピワアートフェス

アート体験を通して環境や地域のことを見つめ直そうと、大人も子どもも楽しめる「遊び」と「学び」のアートの祭典を開催。

- ・ピワアートコンテスト

子どもたちの自宅での創作活動を奨励するため、作品募集を行う。

（4）主な対象者

就学前～小学生

（5）実績・検証

わくわく体験ひろば、クリエイターズマーケット、ロジウラテラス
新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

星降る映画館

3月19日（土）開催／参加者：135名

新型コロナウイルス対策のため、草津アミカホールにて規模を縮小し実施。

□イオンモール草津との連携

・ビワアートコレクション

毎月1回開催／参加者：延べ394名（※1月時点）

・ビワアートフェス

10月2日（土）～10日（日）開催／参加者：延べ256名

・ビワアートコンテスト

7月17日（土）～9月5日（日）募集／応募数：396作品

コロナ対策を施しながらも従来の事業の主旨は変えずに実施できるものは実施していたが、目的としている効果を得ることが難しく、今後も同じ状況が続くようであれば、事業の転換を検討する必要がある。

（6）方向性

イオンモール草津で開催している「ビワアートコレクション」「ビワアートフェス」等との連動性を高め、年間を通じて子どもたちが文化を体験できる機会を創出したい。

（7）委員の意見

- ・イベント実施にあたっては、出店者等にも感染症対策を具体的に示すこと。
 - ・全体的に文化に出会い触れあうことに重点がおかれている。このことも大切だが、「育成」という観点を大切に長期的に取り組むことも大事である。
-

Ⅲ.学校連携プログラム（継続）

（１）事業目的

子ども達が分け隔てなく文化に親しむ機会を設けることで、子ども達の観察力、想像力、表現力等を養い、大人になっても文化に親しむ基盤づくりを行うとともに、市民としての誇りやアイデンティティーの礎となるような文化体験の機会を創出する。

（２）実施主体

主催：（公財）草津市コミュニティ事業団

事業協力：草津市教育委員会（生涯学習課）

（３）事業概要

こころの劇場

草津クレアホールで開催する劇団四季のミュージカルに小学生を招待。

おうみ狂言凶鑑ワークショップ

草津クレアホールでの上演に先駆け、狂言師が学校へ出向いて子どもに生の狂言を体験してもらいワークショップを実施。

青少年とつくるコンサート

地元の音楽団体と青少年たちがワークショップを通して、ともに演奏を行うコンサートを開催。

（４）主な対象者

市内小学生６年生、県内青少年

（５）実績・検証

こころの劇場

12月6日（月）～10日（金）／実施校：市内小学校7校・19クラス

コロナの影響により動画配信での実施となり、文化ホールや各学校にて鑑賞していただいた。

おうみ狂言凶鑑ワークショップ

12月15日（水）～16日（木）／実施校：市内小学校1校の6年生・3クラス

青少年とつくるコンサート

11月28日（日）／ワークショップ参加者：17名

新型コロナウイルス感染症の影響により、本来のやり方とは異なる形での開催となったが、こころの劇場では、一部の学校にホールで鑑賞いただく工夫を行うなど、鑑賞した学校からは好評をいただいた。

(6) 方向性

可能な限り多くの子どもが鑑賞できるよう、各学校への周知や鑑賞しやすい仕組みづくりに取り組む。また、今後の取組の参考とするため学校側のニーズ調査を行う。

(7) 委員の意見

- ・こころの劇場は、オンライン開催であったが学級で子どもたちがお互いの表情を見ながら鑑賞できたことが良かった。
 - ・狂言ワークショップは1校だけの開催であったので、他の学校にも広めていけると良い。
 - ・学校側の負担にならないよう、ニーズを聞きながら音楽の他、美術や文学も含めたプログラム開発を行うこと。
 - ・小学生のみならず中学生や未就学児にも供給する必要がある。未就学児へのプログラムを検討する際は、発達の段階を踏まえ、0歳～3歳、4歳～6歳に分けて考えること。
-

IV. ひとり親家庭へのコンサートチケットプレゼント（継続）

（１）事業目的

企業や市長部局と連携し、より多くの子ども達に劇場での感動体験を届けるとともに、家族との大切な思い出づくりの機会を提供する。

（２）実施主体

主催：（公財）草津市コミュニティ事業団、草津市教育委員会（生涯学習課）

（３）事業概要

ひとり親家庭の御家族を公演に招待する原資として企業・団体からの寄付を募り、抽選で文化ホールのチケットをプレゼントする。応募の周知は広報くさつ、HP 掲載の他、市子ども家庭課と連携し、児童扶養手当の通知文に案内文書を同封して郵送する。

（４）主な対象者

市内のひとり親家庭の子どもおよびその保護者

（５）実績・検証

寄付：19 企業・団体／合計 36 万円

総応募数：37 組 88 名（落選なし）

招待公演：教えて！モーツァルト、おうみ狂言図鑑 2022、劇団四季ファミリーミュージカル

ニーズの高さを感じた。今回は、コンサートのほか伝統芸能やミュージカルなどの様々なジャンルの選択肢を設け募集した結果、昨年度（14 組 30 名）より多数の応募をいただいた。

（６）方向性

より多くの寄付金を集められるよう魅力ある企業へのリターンを検討するとともに、対象者のニーズ調査を行う。

（７）委員の意見

- ・このような小さな取組がだんだんと広がっていくことは良い。
- ・更なるニーズ調査を行い、制度のブラッシュアップに取り組むこと。

13万人の文化プロジェクト（展開）

Ⅰ. 公共空間へのアウトリーチコンサート（継続）

（１）事業目的

仕事や勉強等に忙しく、文化に触れる機会が少ない人や障害者の方に、気軽にコンサート等を鑑賞することができる機会を提供することで誰もが文化に触れることができる機会の充実を図る。

（２）実施主体

主催：滋賀県、文化芸術×共生社会プロジェクト実行委員会、
（公財）草津市コミュニティ事業団、草津市（障害福祉課）、
草津市教育委員会（生涯学習課）

（３）事業概要

駅前空間等を活用し、障害のある方にも配慮しながら、鑑賞しやすいコンサートを実施する。

（４）主な対象者

障害者、社会人、学生

（５）実績・検証

昨年は、県が設置した文化芸術×共生社会プロジェクトの委託を受けて事業の企画・運営を行っていたが、今回は県の方針により県主導の企画に対し協力していく形式となったため、県との連携以外に実施できる方法を検討していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により未実施のため未検証。

（６）方向性

県の支援が無くても事業が実施できるよう、可能な方法を検討する。

（７）委員の意見

特になし

II. 障害者福祉施設へのアウトリーチコンサート（継続）

（１）事業目的

様々な背景を理由に、普段、文化に触れることが困難な障害者を対象とし、文化活動の機会を提供することで、誰もが文化に触れることができる機会の充実を図る。

（２）実施主体

主催：滋賀県、文化芸術×共生社会プロジェクト実行委員会、
（公財）草津市コミュニティ事業団、草津市（障害福祉課）、
草津市教育委員会（生涯学習課）

（３）事業概要

長距離の移動が困難な方でも参加できる地域の施設や、通いなれた場所に出向き、社会包摂型のアウトリーチを展開。アーティストや参加者同士の関わりの中で、コミュニケーションや想像力を育む参加型のプログラムを実施する。

（４）主な対象者

障害者

（５）実績・検証

昨年は、県が設置した文化芸術×共生社会プロジェクトの委託を受けて事業の企画・運営を行っていたが、今回は県の方針により県主導の企画に対し協力していく形式となったため、県との連携以外に実施できる方法を検討していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により未実施のため未検証。

（６）方向性

県の支援が無くても事業が実施できるよう、可能な方法を検討する。

（７）委員の意見

特になし

Ⅲ. 障害者等に配慮した文化ホールでのコンサート（継続）

（１）事業目的

様々な背景を理由に、普段、文化に触れることが困難な障害者を対象とし、文化活動の機会を提供することで誰もが文化に触れることができる機会の充実を図る。

（２）実施主体

主催：公益財団法人びわ湖芸術文化財団、文化芸術×共生社会プロジェクト実行委員会、（公財）草津市コミュニティ事業団、草津市教育委員会（生涯学習課）

（３）事業概要

文化ホールで障害者等に配慮した公演を実施する。

（４）主な対象者

市民全般

（５）実績・検証

□「文化芸術×共生社会フェスティバル 私の表現！フェスティバル」

劇団まちプロ一座公演「紫の夜が明けるとき」

1月29日（土）／草津アマカホール／参加者：65名

差異を越えて、多様な人が一緒に表現活動を行っている団体を紹介するショーケースを企画。障害者やその施設の職員が出演し、障害者の日常を描いた物語を上演した。プレゼンテーションソフトを使用した字幕投影と手話通訳、ヒアリンググループ席の配置、補助犬同伴可とする等、鑑賞支援を行い、障害のある方でも鑑賞しやすいよう配慮した。

昨年は、県が設置した文化芸術×共生社会プロジェクトの委託を受けて事業の企画・運営を行っていたが、今回は県の方針により県主導の企画に対し会場の提供をメインに協力していく形式となった。

（６）方向性

今回の事業も参考にしながら、市としても障害者に配慮した事業を継続していく。また、県の支援が無くても事業が実施できるよう、可能な方法を検討する。

（７）委員の意見

特になし

※ひとり親家庭へのコンサートチケットプレゼントは、次世代文化体験プロジェクトの再掲

ふるさと草津の心プロジェクト（研究）

（参考）歴史文化関連事業

Ⅰ. おうみ狂言図鑑（継続）

（１）事業目的

滋賀を題材にした「新作狂言」を滋賀県オリジナルの狂言シリーズとして展開することで、現代にも通じる狂言の「風刺的な笑い」と日本の歴史の中で様々な文化を育んできた「近江」の魅力を発信する。

（２）実施主体

主催：（公財）びわ湖芸術文化財団、（公財）草津市コミュニティ事業団

（３）事業概要

びわこホールの指定管理者である（公財）びわ湖芸術文化財団との連携のもと、大蔵流狂言の茂山家の協力を得て狂言を上演する。

（４）主な対象者

市民全般

（５）実績・検証

1月16日（日）／草津クリアホール／参加者：165名

滋賀県を題材にした新作狂言「聖問答」を上演。また、市の花であるアオバナを使用する演目「墨塗」も上演し、ロビーで草津宿街道交流館が青花紙の製作道具等関連展示を行った。

草津市ゆかりのことわざ「急がば回れ」を題材にした昨年度の新作に比べると、草津らしさという点で今作は印象が薄かったが、青花紙のPRを絡めるなどの工夫ができた。

（６）方向性

草津の文化的資産を活用した舞台芸術等の制作を行うことで、市民が草津の文化を身近に感じることができる事業を展開する。

（７）委員の意見

特になし

II. キッズシネマ塾（継続）

（1）事業目的

子ども達が草津の歴史文化を題材とした短編映画の制作を体験することで、草津の文化を担う人材の育成に繋がるとともに、ふるさと草津への愛着心を深める。

また、テーマに関連した地元町内会をはじめ、関係団体と協働でまちの魅力である地域資源を再発見することができ、さらには、制作した映画を活用して、市内外に草津の文化の魅力を発信する。

（2）実施主体

主催：草津市教育委員会（生涯学習課）

受託者：一般社団法人 草津に美しい文化芸術を育む会

協力：NPO 法人 京都映画倶楽部

（3）事業概要

中島貞夫映画監督の指導の下、子ども達が監督や俳優、撮影、照明などの映画づくりの役割を担当しながら、草津の歴史文化をテーマにした短編映画を制作する。

（4）主な対象者

市内全小学生 4～6 年生

（5）実績・検証

新型コロナウイルス感染症の影響により中止した昨年度に引き続き、「竹根鞭」をテーマにした作品制作を予定していたが、今年度もコロナにより中止したため、未検証。

（6）方向性

制作物をより活用していけるよう検討する。

（7）委員の意見

特になし

参考資料

審議経過

開催日／会場		主な審議事項
第1回 審議会	令和3年7月29日(木) 市役所6階教育委員会室	(1) 文化事業調査結果 (2) 基本施策の成果指標 (3) 重点プロジェクトの進捗 (4) 草津市文化芸術機能等施設整備基本計画の見直し
第2回 審議会	令和3年9月17日(金) 市役所8階大会議室	(1) 部会の設置 (2) 部会委員および部会長の選出 (3) 見直しにかかる方針
第1回 文化芸術機能等 検討部会	令和3年10月19日(火) 市役所2階特大会議室	(1) 草津市文化芸術機能等施設基本計画の概要 (2) 芸術文化館機能 (3) 歴史伝統館機能
第2回 文化芸術機能等 検討部会	令和3年11月8日(月) 草津アマカホール研修室	(1) 草津市文化芸術機能等施設整備基本計画の見直しについて
第3回 審議会	令和4年1月21日(金) 草津アマカホール研修室	(1) 答申案「草津市文化芸術機能等施設整備基本計画の見直し(案)」 (2) 重点プロジェクトの進捗
第4回 審議会	書面審議	(1) 令和3年度草津市の文化振興に関する意見書 (2) 「草津市文化芸術機能等施設整備基本計画の見直し(案)」のパブリックコメント実施報告 (3) 各部会の廃止について

委員名簿

区分	氏名	備考	部会
学識経験を有する者	中川 幾郎〔会長〕	帝塚山大学	
	松本 茂章〔副会長〕	静岡文化芸術大学	
	<u>糸乗 前</u> 〔部会長〕	滋賀大学	○
関係する団体から選出された者	五十川 伸矢	草津市文化財保護審議会	○
	澤 孝子	(公財)草津市コミュニティ事業団	
	園田 実乗	(特非)草津市心身障害児者連絡協議会	
	寺村 裕加子	Biwartist	
	中村 徹	草津市21世紀文化芸術推進協議会	○
	成田 陽子	草津市教科等部会別研修図工・美術部会	
	<u>久泉 次郎</u>	山田学区まちづくり協議会	○
	<u>古川 弘美</u>	三ツ池財産区管理会	○
公募市民	安積 由里子	公募市民	
	宇野 裕美	公募市民	
	<u>中村 敏枝</u>	公募市民	○
その他教育委員会が必要と認める者	<u>小寺 正宣</u>	前検討委員会委員	○

※下線の委員は草津市文化芸術機能等施設整備基本計画の見直しのみを審議